

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



御本席様来臨とお遺し戴いた品々

をやの思いをにをいかけ、

うちうち
内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一歩前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

表紙のこぼれ

敬業館跡の建物を購入し、笠岡支教会が設立されて、明治二十七年四月十日、本席・飯降伊蔵先生がお立ち寄り下さった事は既に書いたが、これの実現には、初代の並々ならぬ苦心があった。笠岡支教会を舞台に譬えれば、初代は、監督兼演出、後の二代会長・上原伊助が主演男優というところであろう。

明治二十五年四月、伊助は初代の長女・光と結婚上原家に入婿した。高知大教会初代会長・島村菊太郎の弟である。笠岡ではこの年、玉島、福山、高屋、神邊の四部内教会が誕生し、教勢は盛んであったが、会長継承を巡って、不穏な空気が流れていた。初代が女性であり、副会長制を取った事で、次期会長は副会長が、という思いを持つ人がいたようである。弱冠二

十七歳、上原家の人となった伊助の精神面の苦労は大変だった。明治二十六年二月支教会役員改選で伊助は理事兼会計五人の末席に挙げられたが、その後高知分教会に里帰りという事で光と共に向うき、又四国の高松に単独布教に出ている。本席様の御立ち寄りには、笠岡のこうした雰囲気を払拭、伊助の二代会長就任(明治二十八年四月)、支教会新築(明治二十九年二月)と、教勢伸展に素晴らしい御守護をお与え下さった。

本席様がお越しになる二日前、伊助は高松方面に布教中であった。偶々、笠岡に電報を打って、内々の治めを問い合わせた事で居場所が分かり、笠岡から折り返し、本席様来臨を報せた。急ぎ帰会して、役員共々目見えの榮に浴した事は言うまでもない。
当時の日誌を繕く。
晴天 四月十日 旧三月五日
理事 田中福次郎 出勤 会計 伊沢

彦右衛門 同 庶務 中村菊平 同
世話係 長坂龜三郎 同 本日出勤人
高田松太郎 田中光治郎 藤井幾太郎
浅野弥三郎 武内清治郎 高橋吉五郎
高田嶺太郎 藤本林三郎 関戸濱治郎
岡本越太郎 岡本六蔵 岡本久作
岡本虎吉 岡崎佐與松 東山信太郎
龜山金十郎 湯川勝三郎 平田善吉
小寺又吉 田林繁造 浅野芳太郎
吉岡萬吉 阪本音吉 阪本喜太郎
土屋九平 小寺元吉 午前十時頃
高知分教会長
午後六時四十六分 本部御本席様
松田様 長尾様 高井様 増野様
喜多様 加納ノ七名来所セリ 続テ
東分教会長 芦津分教会長 今川様
岡本様 高知分教会長 続テ小野様
蒲原様 島村熊太郎様 八名ノ御方
来所セリ
晴天 四月十一日 旧三月六日
理事 武内清治郎 出勤 会計 岡崎
軍事 同 庶務 中村菊平 同 世話係
佐藤菊太郎 同
本日出勤人 五日ト同じく 正午

本部員 続七名付添の御方同じく
退会ス 岡本久作氏 惣代理トシテ
太渡津迄見送り 上原伊助氏 高知迄
見送り
当時、笠岡では既に毎日、理事、
会計、庶務、世話係各一名が教会
に詰める事になっていた。今の神
殿奉仕である。

なお、伊助は高知迄の途中、白
地から繁藤迄の間、菊太郎と共に
本席様の籠を担ぎ通した。又、四
月二十三日には、安芸の宮島を発
ち三原から汽車にお乗りになった
本席御一行を笠岡駅で、午後三時
六分、夫婦で御見送りしている。
日誌には、初代の事は一切出て
来ない。当時の男性中心の習慣で
は当然の事ではあるが、高知へご
巡教の千載一遇の機会を誠に鮮や
かに頂戴した心意気を、笠岡に繋
がるお互いは、決して忘れてなら
ないと思う。

(史料部長 上原繁道)

婦人会本部総会

四月十九日午前九時半より、初夏のような晴天に恵まれ、第八十七回婦人会総会が、五万余人の会員参集の元に盛大に開催されました。教祖百二十年祭仕上げの年ということでもいつもの年と違って盛り上がりを感じさせられました。

真柱様の婦人会に対する思いを切々とのべられ、「和やかな朗らかな明るい心で、悩む人と接して頂きたい」と親心あふれるお言葉を頂きました。会長様の「底力をこれまで以上に発揮して頑張ってください」と厳しくも、温かいお言葉を頂き、身が引き締まる思いが致しました。

私達笠岡支部では、各委員部で、バスや車等を出し、五百余人が参加しました。午後からは、五会場に分かれて十二時半から、旬に勇んで、喜んで、を題として、各会場三名の会員の感話がありました。五会場の総数は一万二千余人でした。私達第二食堂では、一人目は、自分の身上と親の身上を通して、助かる旬、助ける旬、親の声をたよりに、素直に通じ、日々を何でも種まきを、と。

二人目は、一信者から教会へ嫁ぎ、何も分らなかったが、子供を連れて、にをいがけに出る事は

「神様が二倍の働きをしてくれる」と聞かせて頂き、子供を連れてにをがけに励み今では子供達が協力してくれている、と。

三人目は、母も自分も後家因縁を悟り、子供の身上を通し、「孫を死なせたらあんなのせいや」と云われ、子供をほっておいて、教会へつくし、因縁自覚のもと、すっかりご守護頂いた、と。

夫々の三人の方々のお話を聞かせて頂き、皆、身近にあるような話ばかりで、私達も頑張れば出来そうだなあ、と、つくづく感じさせられました。

お互い底力を発揮して頑張りますよ！

(婦人会常任委員 高田 賀代子)

充実した一日

明石市分教会 杉原 美津枝

今日は朝一番の電車に乗って天理へ。明石、大阪、鶴橋、西大寺と乗り替えて8時30分に天理に着いた。いつもの事ながら鶴橋、西大寺あたりから天理へ向かう人がホームにあふれている。リュックを背負って、杖をついた年配の人がすごく多い。駅に着くと、皆、ひたすら歩く。のんびりしている人なんていない。ただひたすら、ご本部に向かって歩く。

すごくいいお天気に恵まれ、汗ばむぐらいだっ

た。高校時代の友人と黒門で待ち合わせ、久しぶりに逢って会話ははずむ。急いで会場へ、式典が始まった。

目の前に兵神部内の天浦分教会の会長夫妻が座っておられた。150人の住み込み人のある大変大きな教会だ。去年夏、支部の婦人会で、においがけの実修会があり、私達婦人二人に天浦の人がひとり付いて、一軒くまわった。玄関で土下座して拜をしてから、玄関のチャームを押す。「奥さん達は座らなくていいです」と言われた。その時の事が思い出された。自分が初めて見た光景だったので、すごくびっくりした。貴重な体験をさせてもらった。

式典が終って、もうひとりの高校時代の友人が私達に逢いたいからと仕事の合間に天理に来てくれた。20年ぶりかな、久しぶりに逢っても、ずっと逢ってた様な、本当に嬉しい楽しい時間が過ぎた。もうお道からは離れてしまっているけど時々、天理に参拝に来てると言っていた。また、誘い合って、天理で逢おうと約束した。

いろんな事を考えながら、帰路についた。まだまだ未熟な私だけれど、できる事から、少しずつ実行していこうと、心の低い優しい人間になりたい。

楽しくて幸せな充実した一日を過ごすことが出来ました。

信仰ゼロ

芳井分教会 佐藤 和代

十八日夜、子供たちのことを母にお願いしてバスでおぢばに向かう。翌日の婦人会総会に参加させていただくためだ。きつと私の周囲にはこの総会へ何とか参加させていたきたい！との強い思いのもと勇みきっているのだろう！と私は自分自身の気持ちにため息を漏らした。そして今日は、目の身上で主人が一ヶ月の入院をする日でもあった。入院前日の夫婦喧嘩も加わったためか、なんだか私など参加させていただけでないな、と思うところか、行きたくない！と思ってしまう自分を情けなく思っていた。

当日婦人会総会を終え、天理市民会館での3人の方の感話も聞かせていただいたが、自分自身を奮わせてもらえるような耳をもたないまま、全ての日程を終え家へ戻った。

帰るなり、かわいらしい子供たちの顔、留守を守って下さったお母さんや会長さんには、申し訳ないばかりだった。これまで、いろんな事を見せたいだけ自分を振り返りながら少しずつ前へ進んでいけた様に思う。しかし今は、またゼロだなと感じていたように思う！きつと私など始めから信仰していなかったのだと言われて「はっと」

してしまっただけだ。そしてある地点から「私の信仰？なんていう言葉は、使えない。」とおもっている。

そして数日が過ぎる中、「私も何とか神様に縋らせて頂かないといけない。」と素直に思える一瞬を頂いた。——私が作り上げて2年目に入る保育「きずな」でのこれまで最大のピンチ！！裏の川で10人ほどが水遊びの最中の事、二三十秒程の間になぜか川の水位が五十〜六十センチほど増水してしまったのだ。気づいてから即座に子供たちを避難させ靴が何足か流された程度で済んだのだが、ほんの50メートル下流で遊んでいた同じ学校の生徒たちは、レスキュー隊なども動するような大惨事の一步手前の事故であった。今でも身震いするような光景ではあるが、いろんな条件が全て偶然いものばかりだったお陰でうちの生徒は無傷で済ませていただくことができた。

もし日々の生活の中で、何の信仰もなかったならばもしかしたら、何人が亡くなっていたかもしれない！と素直に思えた。

こんな私でも何とか頑張れる節を与えて下さっているのかもしれない。毎日自問自答しながら何とか教会に喜んでいただけるようなとおりをしたい！

これだけは、確かである・・・

心、「ころころ

宇津戸分教会 松谷 静子

春四月は、桜・転入・転出・転勤、又、入学祝と、それぞれの場の上に節でもあり、何かと季節も良い時でも有、又、活動のある月でもあり、心も明るく、勇心の弾みもつく頃かと思えます。

教祖御誕生日の日の、雲一つない澄み切った素晴らしい日であったとの様も思い浮かぶと共に、心も晴れ々、幸福な気持ちになれる、そんな思いを、一人でも多くの人々と共に味わわせて頂ける。婦人会総会——本年も、親神様、教祖から頂いた天候の恵み。五万余の会員参集。

「ひながたをたどり、陽気ぐらしの台となりましょう」とのお言葉。「教祖百二十年祭活動の底力となるう」一、教えを求め身につけよう。一、身近な人に信仰の喜びを伝えよう。一、おたすけの心を培い実践しよう。と。

会長様のあいさつ——婦人会としての成人の道を力強く歩ませて頂く目的と、意義があることと、それ々の役割の意味。

お話しを聞き乍ら、どうすれば役割をつとめられるか、何からでもいい、一つでもいい、自分で心を定め、自分に実践出来る事、又、続けられる事を、親神様・教祖と約束させて頂く。

たとえ素晴らしい事が思い浮かんでも、自分から申し出て約束したとしても、現実、三日坊主で終る様では意義も、意味も、何も無い。

本当に実行・実践して続けられる事を、実行・実践し続けてこそ、日々常々続いてこそ、それが誠・真実となる。その日々の小さな積み重ねの元に、ある日、ある時、不思議な御守護に出会えたり、日々、大難は小難、小難は無難にお連れ通り頂いている十全の御守護に気付き、感謝の思いも湧いてくると、私は思います。

成人のにぶい私ですので、小さな事からでも、続けられる事を心定めをし、実践することも、一つの小さな役割になるでしょうか……。

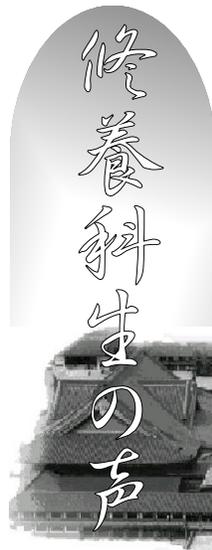
生み育てる努力・育つ努力、育てる中で育て、頂いている。自分の発する言葉の中から、又、てほん・ひながたの中から、心一つで喜びを見つけられるとお話し下さいました。

女性の特分である生み・育ての役目、育つ努力。我慢強く、四方八方に心を配り、つなぎ上手になりましょう、ともお聞かせ下さいました。

真柱様よりのお言葉の中にも、心の涵養、温かい心、低い心、心がこもっていることの大切さを、胸に分る様、一生懸命お話し下さいました。心一つが我がのもの、心一つが自由の理、とお聞かせ下さいました。

やさしい様で一番むつかしいのでは？ 思い様

で、やさしくもなり、むつかしくもなり……。陽気ぐらしが目標なので、やっぱり、心やさしく使わせて頂くのが、たずかる道だと思えます。とはいえ、強さ、厳しさも時折必要ですね、心、ころころ、心く。



もっと強く

島根分教会 門脇とよ

私は大教会参拝の帰り、車の中で会長さんからこの句に修養科に行かないかといわれ、頭が真白になりました。

いずれは行かなくてはならないと思っていましたが……体力がなく、小さい時から肺炎や腸炎ばかりして、両親や皆に心配ばかりかけて、高校出たからは頭痛がひどくて、休むことが多く……と自分のことが頭をかすめ、大丈夫かな、つとめられるかなと心配したり、不安でいっぱいでしたが会長さんからいわれるとおりの句に少しでも動かせて頂き、元気にならせて頂きたいと思ひ出さ

せて頂きました。

教養掛の先生からは毎日おさづけをして頂き、車に乗せて頂いたり、本当にいろいろと心を使っ

て頂き申し訳ない気持ちでいっぱいです。いろいろと見たり聞いたりして心を倒しそうになったり、帰りたい気持ちになったり……：体力がつかないようになった時、教養掛の先生からお話を聞かせて頂き、元気が出ました。そのつど会長さんや両親、皆に心配かけ申し訳なく思っています。

また詰所の皆様方のお心を頂いて何とか二ヶ月が過ぎました。もっともっと、自分が強くならなくてはいけないと心の中で自分にいきかせて通らせて頂こうと思っています。

神様の御守護を頂くのも親の御恩がわかるのもみな自分が元気を下さないと何にもならないということがよくわかりました。これからは喜んで通らせてもらおうと思ひます。



おさづけの理

宇津戸分教会 向島 正敏

天理教は、祖母が布教所で妻が教会の娘だったので、生まれた時から知っていましたが、私は信仰には関心が無く天理教から逃げて居りました。

そんな私に、昨年の秋、突然腰椎椎間板ヘルニアと言う身上を頂き、今年二月二度の手術を受けましたが、排尿・排便障害・神経知覚障害が残り、二月中旬頃、母から修養科と憩の家の話を聞き、病床の中から心を定めて、二月二十六日、おちばに引き寄せられ第七六七期修養科生として修養科生活が始まりました。

座づとめ・てをどり・鳴物どれ一つ分らない事ばかり、又つとめようつとしても満足に正座も出来ない状態でした。その中毎朝おさづけを取次いで下さり、自分では信じがたい御守護をお見せ頂きました。

おぼつかない足取りで右足のシビレをかばう様に時間をかけて通う修養科も、一週間程過ぎる頃より身上も少しずつ回復して参りました。立つ事もおぼつかない中、



おてふりも出来る様になりましたが、一れつの回る処はまだ回る事が出来ませんが、正座しての朝夕の鳴物のおつとめも出来る様になった現在、歩けば同期の八十八歳の老人に負ける程。飲み食いしても、自分で排出する事が出来ず、周りの人に合せて出来ないもどかしさに理解してもらうのは大変です。

毎日、朝夕と神殿に参拝しているのに、どうすれば受け取って下さるだろ、どこ迄すれば許してもらえらるだろと思ひ悩み、不足・不満の心も湧いて来ました。しかし、修養科で「神様への参拝はお礼をする処。しかし、多くの人はお願いばかりする人が多い」と聞かされ、お礼を心掛けて参拝してみると、今迄ものに対して感謝の心の少なかった事に実感した。

両親が元気で居ってくれる事、妻が離れていても元気でつとめられる事、子供達が成長させて貰える事、先生が毎日おさづけを取次いで下さる事、何も彼もが有り難い。今迄私は病院等でおさづけをして頂くと恥ずかしい思いがしていましたが、医学万能と思つて居りましたが、神経は治せない治療法も薬もないと告げられ、精神的ショックと

不安を取り除いてくれたのはおさづけでした。

“わかるよふむねのうちよりしやんせよ人たすけたらわがみたすかる”とおことばに示してあるように、修養科で学んだ事を、教祖百二十年祭を迎える仕上げの時間に、少しでもをいがけ・おたすけに実践して行おうと思つて居ります。

修養科生活も後一ヶ月。せんしょのいんねんよせてしうごふするこれハマつたいしかとをさまる“と教えて頂くが、少しは成人出来たのだから。しかしおちばの理を一杯に頂いた二ヶ月だった様に思う。残された一ヶ月を、どうでもこうでも心を定めて、をやにお喜び頂ける道をしつかり通り、必ず御守護頂く事をお誓いして、最後まで頑張らせて頂く所存です。

本当に修養科に来てよかったと痛感し、よろこびで一杯です

私の修養科生活

芦品分教会 原 美紀

私が修養科に来させて頂いたのは、百年祭の年に生まれた私に、祖母が「みき」と名付けて下さったので、百二十年祭の年までに何とか祖母を喜ばせてあげたい思いで、おちばに帰らせて頂きました。

高校を卒業して直ぐに修養科に入り、全く知ら

ない人達との共同生活が始まり、不安な事ばかりでした。

私は長期ひのきしんでお守所ひのきしんをさせて頂く事になり、担当の先生が「ここは教会の娘さんで用木の人しか出来ん所なんじゃけえ、お前が入れたのも珍らしい事なんじゃけ、しっかり勇みんさいよ」と言っておきました。

私の仕事は雑巾を洗ったり、縫ったりする事でした。新しい雑巾を使わないで補修する事が主な仕事でした。教祖が縫い物をして居られたと言うことで、今も尚常に変わる事なく、私達が引き継ぎしていると言う事でした。

私の今迄の生活とは全く異なり、一か月はあつと言う間に過ぎて、二か月目に入って、私は用木でありながらも、まだおさづけを取次いだ経験もなく、二か月に入った間もない時、同じ修養科生で八十三歳のおばあちゃんが、腰が痛くて歩けないと言うので、私はいろんな事を思い乍らも、初めてのおさづけを取次がせて頂きました。

何故か取次がせて頂いた後は自然に涙が出てしまいました。おばあちゃんは「嬉しい、ありがとう」と涙を流して居ました。この一言が私の心の中に残りました。その次の日おばあちゃんは起き上がる事が出来、修養科に行く事が出来て、とても喜んで下さいました。

二か月目は、教祖御誕生祭の期間は特別ひのき

しんで、境内のお手洗いの世話係。私は今迄教祖御誕生祭に帰参した事がなかったので、喜んでひのきしんに励みました。

お手洗いに居ると、参拝者の方々が「ご苦労様」「何時もおちばのトイレはきれいですね」と言葉掛けて下さった事が一番心に残りました。

又、反面、中垂みと云うか慣れと言うか、何でも不足心にとらわれて「不足をしたら喘息が出るよ」と母に言われ乍らも、不足の心が出た時、見抜き見通しの様に直ぐ喘息の身上を見せて頂き、心を入れかえ、心を定めると心通りの守護を頂き、折しも会長さんから頂いた手紙には「周りを見て不足せずに、神様はちゃんと自分を見て下さるんだ。心を鎮めて、勇んでつとめて下さい。これこそが将来、希望が叶う種蒔になるんだと思います」と書いてありました。

人から何彼と言われる事やされる事が、今迄嫌でたまりませんでした。大難は小難、小難は無難にお連れ通り頂きます事、二年程出なかつた喘息も今度おちばでお見せ頂き、短気は損気、不足は切る理と聞かされ、不足心はずぐ神様が身上として見せて下さる事を知りました。

人間身上かしの・かりものとお教え頂きますが、今回程、身上かしの・かりもの理に、有り難いと感じた事はありませんでした、この気持ちを生涯忘れる事なく歩ませて頂きます。

談話室



地域と共に

福廣分教会長 佐々木 滋郎

私は事情の上から、思ってもみなかった会長にらせて頂きました。人様に御迷惑をおかけしましたので、まず頭を低くし私に出来ることならなんでもさせて頂くよう心定めさせて頂きました。

私の住んでるところは府中市にあって山のふもとにあり、若い人はにぎやかな便利な良い所へ移り住み老人世帯の多い町になります。まず会長になって、まず町内会長さんから飛びこんで来た仕事は、民生児童委員の仕事で前民生委員さんの家に内容お聞きする中に、これは私は出来ないと再三お断りしましたが、「佐々木さんは手足も元気で歩けるではありませんか私も家内も足が不自由で二十数年間してきたのですどうかお願いします」と云われて、ハツとして私は出来ることならなんでもさせて頂くよう心定めしとやないか。だれもする人はいなどの事でさせて頂くことになりました。

最初聞いた話より内容は責任の重い仕事と思いましたが、させて頂く事に決めた以上勇んでさせて頂こうと心定めてつとめさせて頂いておりませう。

その役も町内会、老人会と関係がありますので、そのお世話させて頂いております。

介護保険が施行されるや各市町村でねたきりならないよう「いきいきサロン」と云ったものが始まりました。寝たきりにならないよう音楽療法、老人ホーム施設の先生の講演を聞いたり、ビデオテープの観賞仏教の先生外、天理教の筒井先生、映画等又この間は伊藤正和先生、滝沢てるみさんを招いて陽気ぐらし講座をさせて頂きみなさんに喜んでいただきました。又花見観賞、等いろいろ参加して喜んで頂けるものを毎月一回実施計画してお世話させて頂いております。

これには町内会、老人会、女性会、民生委員が中心になって進めさせて頂き早や二年となりました。その中に昨年来より二名の人が教会に参拝していただくようになり、今年の四月教祖誕生祭団参には初席も快く受けられました。

又、全教一斉ひのきしんデーは町内会長さんから毎年ありがとうありがとうと云って喜んでいただいて、今年は数名の人が参加されるようになりました。

町内会、学校関係行政の上に少しでも役に立て

ば思いながら、毎日御恩報じを念頭につとめさせて頂いております。

私が会長になっておふでさきを読ませて頂く中に一番に頭に焼きついた点は「をやのめにかのふたものハにちく／＼にだん／＼心いさむばかりや」「をやのめにさねんのものハなるときにゆめみたよふにちるやしれんで」これをいつもいつも忘れず、これからも少しでも人様に喜んで頂くよう勇んでつとめさせて頂こうと思っております。



三年千日に思う

葦沼分教会長 三島 順 教

修養科の教養掛りを務める事になり主任が森本先生(海松ヶ岡分教会前会長)と知り筆^{ひつりき}策の管があることを思い出しこの機会に教えて頂くこうと思いつ持参したのだが、教えて頂く内にこれは五十が近い私には無理だと思いきらめていたのだが広島教区の雅広会が福山で講習会を行うので支部の人はなるべく多く参加して欲しいとの事で参加した

のだがやはり無理と思っていたのだがその時、松永支部の村上先生に声をかけて頂き毎月練習をしているのでと声を掛けて頂き一緒にさせて頂いたことになった。

筆策とは大変やかましい、秋の虫にこれをたてるならば、くつわ虫などのようで、不快でとても近くで聞けたものではない。これをさらにへたに吹かれたのではほんとうにいやなことであると書いてあるが女房がやかましい、近所迷惑と言うのも無理ないと思う。

二年目の雅楽教習会の時は二回目だから上級の方に参加したらということになり参加したのだが、わからないことがわからないので、やっぱり初級に行きますと言ったのだが、ここで辛抱したらと励まされ練習をしたのだが自信喪失の二年目であった。しかし音だけは良いからとの励ましの言葉を信じ三年目の講習を受ける事にした。

三年目は、だんだんわからないことがわかりだし、とても楽しい講習会であった。その時ふと三年千日と言う言葉を思い出した。一つの結果が出るには三年は続けないと出ないのか、年祭活動の始めに真柱様は、三年千日はひながたを通る年限の目安と仰った。物事を続けるときつい、こんな事してもと、結果を考えてしまい途中で止めてしまふ事の多い自分ではあるが改めて筆策を通して三年千日の重さを感じた。



自分の信仰

東福山分教会前会長 枝廣 茂市

幼少6才の時、腹痛で病んだ其の時、おたすけを頂いてよく成った事から、何時も教会に参拝する事を楽しみにして、現福山分教会へ、幼少の頃から——自分の生家は、現大門町幕山である。福山分教会えは、道のり二里もある——徒歩にて、物を持って、姉の家が在るので其處へ宿泊しては、楽しみに教会参拝をしていた。其の頃は無上のたのしみとしていた。

らないとは強いと思った。笠岡の初代様と知らないから失礼したと思ふ。其の時のひのきしんは役員住宅建設だった。

自分は、昭和十年、別科五十四期生に入った。笠岡大教会が、其の年四月二十四日に芦津大より分離した。早速、現地詰所購入、敷地ひのきしんが始めた。自分は別科卒業後、家にいたので、福山分教会よりひのきしん用員に行ってくれとの事で、天理教教祖五十年祭が来るので全般に勢がついている時であったので、其の年の教祖御誕生旬間が済んで帰宅した。長いひのきしんであった。

昭和十二年秋、福東分教会が大門横道と云ふ所に家をかりていたのを西深津町へかわった(現場所には其の場所を変えている)。教会へ同居して、ほいがけやら病人のおたすけに行った。

昭和十六年夏、福山郵便局に奉職する事になった。

昭和十八年八月、軍隊に招集されて満州国に行つて、二十年、日本が歴史的に敗戦になってソ連に捕虜としてシベリヤに三ヶ年抑留され、二十三年十一月始めに家に帰った。社会的に色々様々な苦勞をして帰つて来た。

福山分教会に入入りしておたすけ活動をしていた昭和三十七年、妻身上の節より布教所を心定めて、四十年に福誠布教所を始めて布教に専念して、大教会長様の御命を頂いて始める事が出来た。

昭和五十年、福山郵便局を退職しましたので、退職金を頂いたので、現教堂を建設させて頂いている。教会に成るについても、其の頃は所定の授訓者も又役員に成る人も居ましたので、何等心配なく大教会長様の御命にそう事が出来たと思っています。

昭和五十六年、東福山分教会を拝命した。以来、教会長として道の御用をつとめて参りました。

自分は、会長として自覚して拾四年つとめて現会長に変わつとめさせて頂く其中にも、教養係り等色々つとめさせて頂いて、其道中に成人の道も種々通らせて頂いて、今日も尚勇んで通らせて頂いて居ります。が、九十才を超へました今日で、日々楽しくお連れ通り頂いている次第であります。

◆第2回ひまわり大会 (婦人会笠岡支部ひまわり会)

【期 間】 平成17年6月3日(金) 12時半、受付会
1時、開
3時半、散

【場 所】 笠岡大教会神殿
【内 容】 よろづよ八首、支部長様挨拶、会員感話、講話(高屋分教会長)
【対 象】 ひまわり会対象者

◆青年会 別席・伏込ひのきしん団参

いざ、ちばへ!! 老若男女問いません 年祭に向けて仲間とともに

【集 合】 6月5日 午前7時半 笠岡詰所 玄関前広場
 【お問い合わせ】 青年会笠岡分会輸送部 森本正典
 各ブロック担当者 直轄 森本正典、 福山 平盛尚樹、 高屋 瀬良 昇、
 島根 本田正悟、 久松 中村真人、 上下 高田一弘、 府中市 山田睦浩。

◆縦の伝道講習会

【と き】 6月21日(火) 祭典講話
 【と ころ】 大教会
 【内 容】 少年会本部委員による縦の伝道についてのお話

◆こかん様に続く会

【日 時】 6月25日(土) 午前7時30分 出発
 26日(日) 午後5時 到着予定
 【内 容】 月次祭参拝、別席、基礎講座、参考館、支部長様お話、お楽しみ行事、他。
 【対 象】 17歳前後の女子青年
 【受講御供】 2,000円(基礎講座他は別に頂きます)。
 【携 行 品】 宿泊セット、別席を受ける人は席札を忘れないようにお願いします。

◆おやさとふしん 青年会一ヶ月ひのきしん隊 入隊案内

- *第700回隊という記念すべき7月隊に、笠岡分会は一個班(約20名)の心定めをもって入隊準備をしています。
- *ただ今ひのきしん隊へ入隊出来る男子を大募集しています。
- *この120年祭目前のおちばへ、おやさとふしんという絶好の伏せ込みの場へ、ただひたすらに惜しめないひのきしんという真実の汗を、私達と共に伏せ込ませていただくこうではありませんか?

【期 間】 7月1日~24日
 【集 合】 笠岡詰所(6月30日)
 【宿 舎】 第百母屋
 【内 容】 ひのきしん、修練、にいがけ、月次祭まなび、親睦会、等
 【申込〆切】 6月20日
 【入隊受付】 各ブロック青年会委員、もしくは所属の教会長様におたずね下さい。

天理教青年会笠岡分会 ひのきしん部

◆立教168年「こどもおちばがえり」

【期 間】 7月26日~8月4日(10日間)
 【テ ー マ】 感謝 よろこび ひのきしん
 【詰所行事】 ・模擬店 3回開催(7月28日、7月30日、8月1日)
 ・ビデオ上映(期間中毎日午後7時30分より 於 北棟2階修練室)
 ・クイズ(期間中詰所内の各階に張り出す。正解者の中から抽選で景品プレゼント)
 *育成にあたる私たちが、おちばがえりの喜びをもって、しこみのポイントを念頭において、三つの約束を実行する姿を子供達に写し、勇んで道の後継者育成の御用をつとめさせていただきます。

◆修養科修了者の集い

【期 日】 8月21日(日)
 【場 所】 笠岡大教会
 【内 容】 修養科主任永尾隆徳先生の講話、修養科修了者の感話等
 *尚昼食は弁当、飲物コーナーを用意しております。

◆各行事に参加ご希望の方は、
 各ブロックの担当者にお申し込みください

四月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一
慎んで申し上げます

親神様の子供かわい一条の親心溢れる御守護とお導きを頂いて日々は結構に恙な
く生活くさせて頂いております事は誠に有難く勿体ない極みでございます。特に今
は春まっさかり大教会の花も梅から桜へ桜からつつじへと咲き替わり緑も日毎に青さ
を増し草花の芽生えの勢いをそのまま写して心にも勢いをお与え頂き日々は喜びと感
謝の気持ち一杯に朝夕に御礼申し上げると共に御恩報じを念じてたすけ一条の御用を
果たすべくにをいがけおたすけにと勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はこれの笠岡の理にお許し下された四月の月次祭を執り行な
う日柄でございますので只今から今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達と相
共におつとめ奉仕者一同喜び心をみかぐらうたに託し声高らかに唱和しつつ勇んで座
りづとめてをどりをつとめさせて頂きます。四月十八日の教祖御誕生祭に想いを馳せ
尚も勇む皆の真実の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申
し上げます

さて来るべき教祖百二十年祭に向けおちばでは諭達第二号の発布に始まり諭達巡教
続いて地方講習会をして現在道は先達大会を開催し年祭にふさわしい成人が出来る
ようにとお導き下さっております。加えて別席に繋がる基礎講座修養科に繋がる三日
講習会と次々にこの旬に始められお仕込み下さると共に伏せ込みひのきしんを通して
理作りをもお仕込み下さっております。誠に有り難く存じております。その上で一番
大事な事はそれらを日々の生活くさしにいかにか活かして行くかという思いから一、一
歩前進百万軒一、おつとめの徹底とひのきしん一、機を逃さずおさづけの取次の三
つの実践項目を揚げて実動に邁進させて頂いております。二年目の今年更なる実動を申
し合わせるべく来月は改めて直轄巡教をさせて頂いて笠岡に繋がる皆が心を揃えて一
手一つに勤めさせて頂く覚悟でございます

何卒親神様には届かぬながらもどうでもと親心に応えるべく成人の歩みを進める皆
の真実誠の心をお受け取り下さいましたすけ一条の上に温かい親心をお現わし下さ
りたすける方もたすけられる方も共に喜び合ってそして共々に成人の歩みを進められ
ますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます



▼養徳社発行『陽気』誌五月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「葉」選五十五句中、笠岡に繋がる教
友の方一名、一句が見事選ばれ掲載されていました
ので転載させて頂きます。おめでとうございます。

佳詠 油木分教会長 黒瀬修式
運命を決める言葉の使い分け

▼病喜録

東濱 十三雄

満開の峰の裾野の山桜
霞に溶けて 心なごまし
ニコニコと孫が近寄り顔つつき
酸素チューブに興味津々

JR福知山線 大惨事

どこで起きるか 何が起こるや

▼道の笠歌

詩かくしん

夏の笠岡にてりつく日ざしにて
くだものみのりて日本のほこり
上原と云えば初代の道うかぶ

笠岡の道 足ではこんで

国道の二号に見える棟一つ

笠岡の屋根かがやきて見ゆ

笠岡の道をのばするコマーションヤル

ハッピーを着ようよつとめにぎやか
すれちがうハッピーの笠岡ほればれと
見てなみだぐむ今日のしあわせ

大教会だより

◎教会長資格検定講習会修了者

後期 立教168年4月19日終講

芦常原 啓道

*先月号に3月終講分で掲載して
おりましたが、4月の間違いでした。

前期 立教168年5月14日終講

湯田原 品川 千代美

稲倉 廣田 真也

亀田山 浜田 たつ子



実践項目集計 (3月)

百万軒にをいげ	60,070軒
おさづけのお取次	4,212回
身上事情お願い	798件

◎本部食堂ひのきしん

自 立教168年5月1日	國須 谷口生子
至 立教168年5月15日	甲井 為平郁子
久松 中村 剛史	

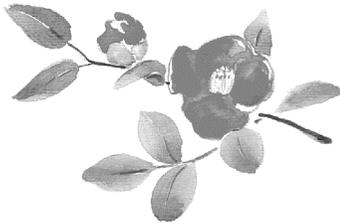
計 報

藤井昭子姉

神邊分教会長

五月十四日出直されました。

享年 六十五才



時季を逸したが、

……花と言えば桜である。

爛漫の桜花には、寒きを凌いだ強さがある。その華やかさには、誰も知り得ぬ季を只管に耐え忍んだ奥床しさが偲ばれる。

やがて、ハラハラとたおやかに散り敷く花卉も美しく、その上、遺された葉桜は改めて艶やかである。

今年の春は散り遅れた梅・桃、椿までが桜と競演し、八重が綻びるや平戸が咲き始め、やがて、足許には蒲公英や葎たちが可憐な表情を覗けだした。

「二月は去ぬ、二月は逃げる、三月は去る」と謂うが、押し並べて、……春は過ぎ逝くものである。

色とりどりの花たちに目を奪われているうちに、馨しき若葉たちも萌え出づる。

目には青葉 山郭公(ヤマトキス) 初松魚(ハツマツウ) 白秋にも対峙する好季の到来だ。

年祭活動仕上げの年は実あらしめるべしとお打ち出しを頂いて、既にその折り返し点を迎えようとしている今——私たちに何ができたのだろうか？

私は、徒に花を愛でていた訳ではないが、心を奪った花に罪があるのでもない。

『中山眞之亮伝』には、「眞之亮ハ、十五、十六、十七ノ三ヶ年位、着物ヲ脱ガズ長椅子ニモタレテウツクト眠ルノミ。夜トナク昼トナク取調べニ来ル巡查ヲ、家ノ間毎ク屋敷ノ角々迄案内スルカラデアル。」とある。

思春期の、青春真只中の三年を、道の志たるべくお通りくだされたものではあるが、安易な想像を拒む、切迫した空気が伝わってくる。

残された半年余りの日々は、食欲の秋を挟んで、季節の移り変わりに、また心を奪われることのないよう、少しくは控え目に通りたいものと、今から、心配している次第である。

(お)